

2025年度業務実績報告書

提出日 2026 年 1 月 6 日

1. 職名・氏名 准教授 金粕 仁美

2. 学位 学位 修士、専門分野 看護学、授与機関 福井県立大学、授与年 2016 年 3 月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 小児看護学概論（1単位 毎年開講） 学部2年次生（2022年～）
②内容・ねらい 子どもと家族を取り巻く社会の変遷を概観した上で、小児医療・看護の現状について学ぶ。また、子どもを理解するための発達理論や子どもの成長発達の特徴と支援について学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 全8回中6回の講義を担当した。小児医療の変遷や児童虐待防止、発達障害等においては講義形式の授業を実施した。子どもの成長発達やプレパレーション、発達理論に関しては、小児看護学や小児看護学実習でも活用できるように、穴埋め式のレポートを作成し、教科書を基に事前学習・ミニテストを実施している。講義は主にこのレポート内容に基づいて行い、発達段階別の動画を取り入れることで学生の学びを深められるように工夫した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 緩和ケア論（1単位 毎年開講） 学部2年次生（2023年～）（オムニバス）
②内容・ねらい 緩和ケアの概念を理解するとともに、緩和ケアを提供するうえで必要な基本的知識と技術を教授する。残された時間が限られた人と家族の心理を理解し、苦痛の緩和を考える。さらに、生きることを考える死生観も養う。この授業では領域横断の科目とし、成人期および老年期における終末期の特徴と緩和ケア、小児における終末期の特徴と緩和ケア、精神疾患を持つ人の緩和ケア、在宅における緩和ケアをオムニバス形式で講義する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 全15回の緩和ケア論のうち、小児における終末期の特徴と緩和ケアの講義を1回担当した。小児看護における終末期看護の特徴や意思決定支援、グリーフケアなどについて講義形式の授業を行った。また、子どもホスピスや子どもの緩和ケアを行っている施設を紹介し、各施設で実施されている緩和ケアについて動画を用いて紹介した。さらに、周産期（新生児）緩和ケアや生まれてすぐ亡くなった子どもの親へのケア等についても講義し、病院で行われているケアの実際について紹介した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 小児看護学（2単位 毎年開講） 学部3年次生（2015年～）
②内容・ねらい（自由記述） さまざまな発達段階・健康障害とその段階・生活過程にある子どもに対し、適切な看護を行うための基本的な考え方と看護技術について学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 全15回中10回の授業を担当した。小児看護に必要な考え方を身につけるために、小児看護学実習で受け持つことの多い疾患を中心に、主にアセスメントから看護問題の抽出までの事例展開を行った（気管支喘息、1型糖尿病、アデノイド増殖症等）。チームベースドラーニング（TBL）の考えを基に、事前学習、ミニテスト、グループワーク、プレゼンテーション、振り返りの流れで学習を進めている。また、ミニッツペーパーを実施し、その内容を基に授業改善を行っている。特別講義「子どものあそび」（全2回）では、実習施設の主任保育士より、保育

園の紹介や、病棟でも実施できる遊びに関する演習を行ってもらった。	
【ゲストスピーカー 1人】	
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等
小児看護学演習（1単位 毎年開講） 学部3年次生（2024年）	
②内容・ねらい（自由記述）	さまざまな発達段階・健康障害とその段階・生活過程にある子どもに対し、適切な看護を行うための基本的な考え方と看護技術について学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫	全15回中、6回の授業を担当した。アセスメントから看護計画の立案までの看護過程の展開と、小児看護技術演習の2部構成で展開している。TBLの考えを基に、事前学習、ミニテスト、グループワーク、プレゼンテーション、振り返りの流れで学習を進め、計2事例を展開している（急性リンパ性白血病等）。うち1事例は具体的なプレパレーションの内容も計画立案している。技術演習は、①日常生活援助と与薬、②SimJuniorを用いた術後のアセスメント、③医療的ケア児モデル JANAを用いた心肺蘇生法・医療的ケア、④腰椎穿刺・骨髄穿刺の4つ内容で実施している。心肺蘇生法と医療的ケアの技術演習については、小児救急看護認定看護師に担当してもらった。更に、子どもへのプレパレーションの実際として、ホスピタル・プレイ・スペシャリストによる特別講義を実施した。授業ごとにミニツツペーパーを実施し、その内容を基に授業改善を行っている。
【ゲストスピーカー 2名】	
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等
小児看護実習（2単位 毎年開講） 学部3年次生（2015年～）	
②内容・ねらい	子どもの成長発達、及び健康障害が子どもの身体・こころ・社会関係に及ぼす影響を理解し、より健康に育まれるよう子どものもてる力を活かしながら看護を実践し、評価する看護実践能力の修得を到達目標とする。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫	小児看護学実習は、4～5日間の小児病棟／医療型障害児入所施設での実習、及び2日間の保育園／福祉型児童発達支援センターでの実習を行っている。小児病棟／医療型障害児入所施設での実習では、入院／入所する乳児期から思春期・青年期の子どもを1名受け持ち、アセスメントから看護評価までの看護過程の展開を行っている。個別指導やグループカンファレンスなどを多く取り入れ、3～4人の学生に対して1名の教員が継続してサポートするようにしている。また、計画立案に関する臨床指導者等とのカンファレンスも実施しており、より臨床に即した助言を得られるようにしている。保育園／福祉型児童発達支援センターでの実習については、実習のねらいに沿って見学実習し、臨床指導者とのカンファレンスや学内でのグループワークにより学びを深められるよう工夫している。学生が主体的に自己の看護実践能力を高めていけるように、実習前には自己課題を明確にし、実習後には自己評価と今後の課題の設定ができるように個別面談を行っている。2023年度からは、Laerdal Medical の Sim Junior を使用し、実習前の技術演習を行っている。
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等
小児看護発展セミナー（2単位 毎年開講） 学部4年次生（2018年～）	
②内容・ねらい	既習の小児看護学関連の学習内容を踏まえた上で、学生自身がテーマを選択し、小児看護の専門性を探求する。具体的には、子どもとその家族に関連するテーマを選択し、医療・保健・福祉・教育等の連携の視点で文献検討を行う。また、文献検討の結果をプレゼンテーションし、グループメンバーによるディスカッションを通して学びを深める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

学生自身がテーマを選択し、学生主体で文献検討に取組めるように工夫している。2025年度は8名の学生が受講し、発達障害の子どもの看護や子どものメンタルヘルスなどのテーマを選択し、プレゼンテーションとグループメンバーによるディスカッションを実施した。また、アメリカからの留学生2名に参加してもらい、それぞれのテーマについて英語でプレゼンテーション・ディスカッションを行うことで、日本と海外の違点や類似点について学びを深められるように工夫した。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

卒業研究（3単位 毎年開講） 学部4年次生（2017年度～）

②内容・ねらい

自ら探求する態度と、研究能力の基礎を身につけることを目的としている。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

個別指導での文献検討や計画検討をおこないながら、研究方法の学習や研究課題の明確化ができるように支援している。研究計画書作成後は、学生が問題なく分析や論文執筆や研究発表をすすめられるよう個別にメールや面談などで指導をおこなっている。今年度は主として3名の学生を担当し、それぞれの研究テーマについて、小児がんの入院治療を受けた経験を持つ子どもの親を対象にインタビュー調査を実施した。また、研究成果を質的研究として論文にまとめ、研究参加者にフィードバックした。また、2名の学生のサポートを行い、それぞれ文献検討の結果を論文としてまとめた。うち、1名は福井県内で開催された学会で発表（ポスター）した。

(2)その他の教育活動

- ・大阪大学医学系研究科保健学専攻 招へい教員（2025年）
- ・バドミントン部顧問（2019年～）

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【0 本】
②学術論文（査読あり）	
1. <u>Hitomi Kanekasu</u> , Hiroko Watanabe, Satomi Hara, Hitomi Ando, Symptoms in Japan: A Longitudinal Study From, the Second Trimester to Three Months, Postpartum, Cureus, 17(12): e98864	【1 本】
③その他論文（査読なし）	【0 本】
④学会発表等	
1. 岡山智子, 梅田奈々子, <u>金粕仁美</u> , 渡邊浩子, 男性不妊の精液の質とメンタルヘルスとの関連, 第 39 回日本助産学会学術集会, 2025, 11.	
2. 岡山智子, 梅田奈々子, <u>金粕仁美</u> , 渡邊浩子, 男性不妊の精液の質とヘルスリテラシーとの関連, 第 66 回日本母性衛生学会総会・学術集会, 2025, 10.	
3. 水谷心, 上谷祐子, <u>金粕仁美</u> , 双子研究からみる精神疾患における遺伝と環境の寄与, 第 23 回コ・メディカル形態機能学会学術集会, 2025, 9.	
*4. <u>Hitomi Kanekasu</u> , Satomi Hara, Hiroko Watanabe, Shu Taira, The relationship between maternal hair oleamide and postnatal mental health: Analysis using Nano-PALDI Imaging Mass Spectrometry, XXII European Conference on Analytical Chemistry, 2025, 8.	
5. Satomi Hara, <u>Hitomi Kanekasu</u> , Hiroko Watanabe, Goji Nakamoto, Makoto Fujii, Masayuki Endo, Shu Taira, Biomarker from a single hair to predict prenatal and postpartum depressive symptoms in pregnant females and their partners, XXII European Conference on Analytical Chemistry, 2025, 8.	
*6. <u>Hitomi Kanekasu</u> , Hiroko Watanabe, The relationship between attachment style toward partner and maternal-infant bonding failure at one month postpartum, International Council of Nurses (ICN) congress 2025, 2025, 6.	
*7. <u>Hitomi Kanekasu</u> , Hiroko Watanabe, The relationship between attachment style toward partner and depressive symptoms at one month postpartum, 15th International Nursing Conference, and 28th East Asian Forum of Nursing Scholars conference, 2025, 2.	【7 件】
⑤その他の公表実績	【0 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】	
・ 2023～2025 年度 科学研究費助成基金基盤 C 研究代表者 360 万円	
【学内】	
・ 2025 年度看護福祉学部 KF 枠 研究代表者 15.4 万円	
(3)特許等取得	

(4)学会活動等
・日本看護研究学会近畿・北陸地方会 広報委員会（2018 年～） ・コ・メディカル形態機能学会 第 23 回学術集会 事務局（2025 年 9 月 19-20 日・福井市）

5. 地域・社会貢献活動

・国際認定ラクテーションコンサルタント（認定 2012 年、2017 年、2022 年） ・新生児蘇生法「一次」インストラクター（認定 2015 年、2020 年、2023 年） ・福井県小児糖尿病家族会 ひまわりの会 ボランティア（2016 年～） ・コミュニティナースとの連携（ユース保健室等）（2023 年～） ・がんの子どもを守る会福井支部 ボランティア（2024 年～） ・福井赤十字病院 看護研究指導（2019 年、2023 年、2025 年） ・福井県いじめ再調査委員会（2025 年） ・あいあい助産院（京都市北区）ボランティア助産師（2025 年）

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
・国際委員会：委員（2025 年度） ・カリキュラム検討委員会：委員（2022 年～） ・倫理小部会：メンバー（2025 年度） ・修士ワーキンググループ：メンバー（2025 年度）
(3)学内行事への参加
・武生東高等学校入試説明会（2025 年 7 月 4 日）
(4)その他、自発的活動など